





# 巻頭言

山崎

岳

(総合科

学 研究科副 研究科長)

「研究は世  
の為人の為？」



総科一年生の講義「総合科学へのいざない」では、グループごとに意見を集約します。大学での学び、がテーマの回では、「高校までは自分の為に学んできたが、大学では将来ヒトの役に立てるようになる為に学ぶ」という意見が複数出され、正直、えらいなーと思いました。振り返ると、私は「ヒトの役に立つことを目指さない研究」を極める為に学んできました。

わりと早くから研究者、化学者になりたいと思っていた私にとって、憧れの化学者は、ヘンリー キャンベンディッシュ(一七三一〜一八一〇)です。中一のころに角川文庫の「空気の発見」で出会ったキャンベンディッシュは、アルゴンの発見、金属と酸による水素の発生、水素と酸素が反応すると水ができることなどを報告し、地球の比重を計測した業績で知られるイギリス貴族です。大変な人嫌いで、大学などに属せず、自分の別荘で少数の助手と私財で研究を行いました。論文

として発表した  
だけで、死後のノ  
ロンの法則を発  
発表される二  
則はオームの四  
たことが読み取  
立されたケンブ  
イツジュ研究所は  
八人のノーベル  
彼は、地位や名  
自分の「趣味」と  
究し、自分で納  
文にする、とい  
た(人嫌いのため  
伝わっていません  
実行できるだけ  
産業革命以前で  
まだ希薄だった  
ますが、自分の  
も束縛されずに  
大変憧れをいだ  
立ちしてもその  
いことはわかって

のは研究結果の一部  
トからは、独自にク  
見し、シャルルの法則  
一年以上前、オームの  
十六年前に発見して  
れます。彼にちなんで  
リッジ大学のキャンベ  
DNAの研究など、  
員学者を輩出していま  
書、お金のためではなく  
して好きなテーマを  
何の行った内容だけを  
ことを書いたように  
記録が少なく、本心  
が)。もちろん、研究  
の財産を持っていたこ  
、科学と産業の関連  
ことなどが背景にあ  
好きな研究だけを何  
行える、という状況  
きました。わが身は  
ような境遇にはなれ  
いましたから、せめ

研究内容だとは、目指さない、と心に決

めた。一は位置では、受験の時、理

学部（工、農口指さなくてはならなくな

立つ。残念ませんでした。

部のお出で、役には立たない路線をお

おむ。学で学んできた。広大総科

で職を得た。味わらず、なぜか動物のホ

属したにも、ヒトの役に立ってしま

ルモノ、もしか、かなりの危機感を覚え

れは、ないか時の「釜儲けにつながる研究

が、当、故人が。な。（製薬）会社かららむ

共同研究の中

だが、幸い、未だ大事には至っておりま

せん。そうは言っても、理系の研究にはお金

がかかります。税金や民間由来のいわゆ

る外部資金の研究費が必須です。最近

の外部資金の申請では「この研究はどの

ように役に立つか」が重視されるので、

心苦しい思いをしなが、意に反する申

請書を書かねばなりません。そうこう

しているうちに、広島大学がすばらしい

スローガンをかかげてくれました。『学

問は最高の遊びである』。私にとって、学

問とは研究を遂行するために修めるも

立つ人。物に、わけではありませ

を身にま。決して。私に、

に行つて、。私のモットーは、役

に立つこ。い。ることではなく、

です。ネン。ウイスコ。M テミ

九七五。弁（？）！。一九二

おりま。のインタ。の原因、

の発見。した。「私。スを詳細

しました。ズのように。るとは

。の遊びや趣味のた。めには

。に、。に、。に、。に、

。に、。に、。に、。に、

こと、その過程で学生たちを十分に教育  
すること、それが今後も私の本望です。

高<sup>い</sup>研究は、研究して<sup>いる</sup>時<sup>点</sup>に立<sup>つ</sup>も  
は見<sup>え</sup>なくとも、必ずヒ  
のです。

そ<sup>の</sup>、私が「ヒトの役に<sup>な</sup>  
さ<sup>な</sup>い研究」を志すのは、  
あるから<sup>です</sup>。私の研究  
ん高めれば、将来全<sup>く</sup>予  
で世の為人の為に役に立<sup>て</sup>  
もしれないと、密かに願<sup>っ</sup>  
総科の一年生をえらい<sup>か</sup>  
は、徹<sup>ら</sup>は素直に「人の役  
発言したから<sup>です</sup>。心の  
でも「役に立<sup>つ</sup>ことを目<sup>的</sup>  
言<sup>っ</sup>ている私は、多分<sup>に</sup>  
私の研究のレベルは、「  
立<sup>つ</sup>」という域にはまだ<sup>達</sup>  
うに<sup>思</sup>えます。しかし、  
かわかり<sup>ませ</sup>ん。特に総科  
的な刺激の多い<sup>ところ</sup>で、  
す。『<sup>自</sup>前の研究を、キャ  
にあ<sup>や</sup>かつて変<sup>な</sup>野望を、  
杯<sup>遂</sup>行し、も<sup>っ</sup>ぱらその

